

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200352		
法人名	株式会社 大淵産業		
事業所名	グループホーム清風		
所在地	〒866-0013 熊本県八代市沖町6番割3873-1		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の尊厳を大切に、敬意を持ったケアの実践に努めています。また、できることが維持できるよう、必要以上の手出しをせず、一人一人のペースに合わせた介護を心掛けています。
お手伝いや季節のおやつ作り等、昔を思い出しつつ、楽しみや役割を持っていただく事で、生き生きとした生活を送っていただけるように支援しています。
スタッフは常に利用者様の課題や状態変化に気を配り、情報共有して話し合うことで問題解決に努めています。
コロナの影響で難しいですが、利用者様のこれまで築かれてこられた関係性や繋がりを大切にしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者交代から初めての外部評価にあたり、できていない事はできていないとし、飾ることなくありのままを自己評価している。コロナ禍にあっても入居者の楽しみ事を話し合い、ドライブやホーム内での活動の幅を広げている。車窓ドライブは職員や入居者の意見を反映し、馴染みの地域や神社、観光地に出かけ、状況によっては車から降りて個々の思い出に浸りながら有意義なひと時を過ごされている。運営推進会議は現在、書面での報告となっているが、開設時より入居者も同席して進行しており、ホーム内をオープンにし透明性のある運営を実践している。また、担当職員を中心に手作り料理が提供されており、専門店からの食材配達や菜園の野菜を活かすなど楽しみとなっている。入居者の身体状況を見ながら、職員の気づきや提案を日々記録として残し、ケア会議の課題として取りあげながら入居者の“今”に必要な支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			○	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつも見える位置に貼ってあり、時々振り返りながら理念に基づき、1人1人のケアに合わせ実践している。	ホーム理念と介護理念3項目をケアの指針としている。入居者の歴史から人となりを知り、互いを高め合う生活を日々の目標として入居者を主体としたケアの実践に努力している。職員同士の意思の疎通を図り、入職者にはホームの姿勢を伝えながら、統一したケアを目指しており、カンファレンスを有効に活用している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で難しく、地域との交流ができておらず、敬老会利用者は直接のつながりが途絶えたところもあるが、隣家がGHの敷地を活用されたり、コロナが少し下火になった折、コスモスを見学させていただいた。	感染症の影響により思うような交流が出来なかったとの事ではあるが、状況を見ながら人との接触を避け、地域へ出る機会を作っている。入居者の馴染みの地へのドライブや、車窓から観光名所を眺めることが、コロナ禍での行事の一つとして定着しつつある。地域の関係者には運営推進会議の資料にて現状を理解してもらうように情報を発信している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為できていない。感染に配慮しながら発信する方法を考えていかなければいけないと思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っているが、コロナの為職員と利用者へのみの参加になっている。関係者には資料の送付を行い、意見等を受け付けている。	ホームでは開設時より、入居者のありのままの姿を見てもらおうとリビングを会場として会議を開催している。書面審議となった現在も入居者を交えて開催し、入退居の状況や事故報告、研修の実施状況を話し合い、運営推進会議の委員には入居者の普段の様子も写真で発信している。	管理者は、地域代表者へ郵送する会議資料について、手渡す事で意見の収集を図りたいと検討している。対面での開催に向け参加者の声を聞く機会としていただきたい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に制度のわからないことや事故報告についての相談をして、よりよいやり方の指導を受けている。	行政には運営推進会議の資料にてホームの現状を報告している。事故報告書の提出や入居等に対する相談、制度上の質問に応じてもらいながら、ホーム運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にカンファレンスで再確認し、点検して身体拘束しないケアに取り組んでいる。施設として、鍵をかけずオープンにしている、自由に出入りできている。	職員は身体拘束について定期的な勉強会と地域の同業者で構成する合同研修会で認識を深めている。入居者の現状をカンファレンスで共有し、一人ひとりの“今”を知る事で必要とされる支援を見極める事でリスクを軽減し、拘束に繋がらないようにしている。運営推進会議資料に研修内容を報告して外部へ向け発信している。	玄関は施錠することなく日中はオープンにしており、外出傾向にある入居者へは職員が後から付き添い、そのまま散歩するようにしている。職員の言葉使いについては今後も課題の一つとして心して対応していく必要があるとしている。継続した取組を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で話題提供や意見を出し合い、防止に努め、学びを深めている。対応が困難な場合は職員を交代する等ストレスをためることで虐待につながらない様にもしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方への支援事業、後見人制度は勉強会で学ぶ機会を得ている。制度についての資料をいつも見られる所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者のほうで契約書を読みながら説明を行っている。その際、家族様から質問や疑問点に答えながら理解・納得されるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置して、いつでも受け付けられるようにしている。また、家族訪問時等その日の担当が対応し、全員に内容も共有できるようになっていて、運営に反映させている。	入居者を介護を受ける側ではなく、生活の主体者として位置づけ、好きな事、出来ることでホーム生活に力を発揮してもらうようにしている。職員は普段の関わりから入居者の意見や要望を引き出すように努めており、家族には電話や面会の際に遠慮なく意見をもらうよう投げかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者への報告はできており、代表者へは管理者を通して行っている。管理者から職員に意見等求め、働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。	法人が運営する他のグループホームと互いの情報を共有し、合同勉強会や行事を通して切磋琢磨しながら入居者支援にあたっている。職員の意見はミーティングなどで聞き取り、ケア向上や業務改善について管理者が運営者に報告し、必要な対応がとられている。有休取得や育児休暇、資格取得の後押しなど働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能評価表を利用し職員個々で自ら評価することで見つめ直してもらい、管理者を通して把握している。男性の育児休業も整備された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社負担で資格の更新をさせてもらっている。コロナ禍で開催があまりできていないが、研修会にも参加させてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であまり開催されていないが同業者の勉強会に参加していて、サービスの向上につながっている。集まれないときは、研修資料がメールで送信されてくる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の様子やプラン等で状況を把握した上で本人様と対応し、不安の解消・要望等への対応に努めている。表情や目線に気を配り、傾聴を心掛け、否定や頭ごなしの発言はしないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報提供や管理者からの報告で共有しており、家族の思いを伺ったうえで、思いに添えるような対応に努めている。家族の心配、要望等にはできる限り寄り添っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の書類やカンファレンス等で今必要とされている支援を知り、提供できるよう努めている。また、本人様の行動を見極め、一緒に悩み、考え提案できることを探すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学ぶところ、教わることは多く、共に支え合う関係が築けている。一緒に会話をしながらお盆拭きやゴミ箱作りなど役割を持ち行って頂いたり、同じ空間で会話できる環境作りにも取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助や誕生日のお祝い等、本人と家族の絆を絶やすことなく協力していただき、ご本人を共に支えていっている。また、日頃から家族様の話も交えながら声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所はコロナで行くことは難しいが、ご本人の馴染みの物や人・場所・話題を話の中に加え、関係継続の支援に努めている。面会等は感染に気を付けその時の状況で対応しており、遠方の家族と電話で話される機会もある。	感染症の状況を見ながら面会方法を検討し、家族との関係性が途切れないようにしている。外出の機会として定着しつつあるドライブには、入居者に馴染みの地域や神社、観光地を選び、車窓からの景色を楽しんでもらうように工夫している。入居者の生活歴や聞き取りから畑仕事や洗濯たたみなどへの関わりや、男性入居者が一家の長として頼りにされることを喜ばれるなど、一人ひとりの暮らし方に寄り添うようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、性格、経歴等を把握しながらトラブルがないよう見守り、共同生活が充実するよう努めている。また、洗濯物たみを一緒に声掛け合いながら行って頂いたり同じ空間で会話されるような環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も野菜の苗を持って来られたり、電話にて終了後の状況も把握している。サービス終了後も入院されている方については、お見舞いに行ける機会があればと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いに合わせて尊重し、暮らしに寄り添い、希望に添えられるようにできるだけ努めている。また、思いを伝えられない人は、職員でその人なら…と話し合い、検討している。	職員は入居者との普段の会話から思いを引き出し、意思表示が困難になられた方にはこれまでの様子や家族の声を反映して本人の意向に近づくように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ての把握は難しいが、アセスメントを確認して生活スタイルやパターンを把握し、本人から直接話を聞いたりもしている。また、表現等困難な利用者様については、家族様に生活歴等伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の一日の過ごし方やその日の心身状態に合わせて、残存機能を生かした役割をお願いしている。また、行動・発言・表情を観察し記録に残し、目を通してしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の経過を報告し話し合うことで、課題、ケアの問題点、アイデア等を介護計画に反映させようと、スタッフが共通の認識を持っている。また、本人の要望と介護する側の提案をケアプランに反映させている。	入居者の意向や状態変化などについて、職員の気づきやケアの提案をその都度記録し、会議で検討している。入居者の身体レベルの低下に伴い、嚥下状態の見極めや安全な食事提供、バイタルチェック及び様子観察の徹底をあげている。担当者会議は家族に入居者の今を見てもらい、体調や生活の状況、ホームの対応を伝え、家族の意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はできるだけ細かく記録し、気づき等は皆で情報共有している。個別に記録することで、実践や介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズや課題に対応し、食事形態等臨機応変に取り組んでいる。また、スタッフ各々が色々な提案を出したり、実践につなげるよう出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出の機会はあまりないが、車から降車しないでドライブに行ったり、人があまりいない公園で桜見物をしたり、梅ジュースや干し柿づくり等安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう工夫して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護や往診の医師から受診の提案があったときは、状態をお伝えして家族の希望に沿うようにしている。また、特変があればすぐかかりつけ医や訪問看護に報告し、指示を仰いでいる。	かかりつけ医については本人・家族の希望に応じ、訪問診療や家族対応による受診が行われ結果を共有している。職員は日頃の関わりの中で異常の早期発見につなげ、何かあれば主治医や契約している訪問看護に連絡を行い、指示を受けている。歯科については必要時に訪問による治療や口腔ケアが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日頃の経過・特変等を訪問看護や看護職に報告し、情報共有に努め、助言を受けている。また、利用者が適切な受診や看護を受けられるように家族様に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は管理者がお見舞いに行っている。病院関係者と入院中の状態や入院前との状態変化等情報交換を密にして、退院後受け入れることができるか相談している。その情報を職員間で共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明・意向を確認しており、状態変化に合わせて方針変更を確認して関係者と共同で支援している。重度化された利用者様の家族の要望などを聴き、施設ができる限りのケアを行えるよう努めた。	入居時に看取り指針をもとにホームの取組を説明している。管理者は家族の思いをくみ取りながら、状況に応じて意向などを確認していきたいと申し添えている。家族の揺れ動く気持ちを察し、主治医とより良い方向性を検討し、ホームに出来る支援が行われている。この1年で看取り支援を行った際、感染症に配慮しながら最期は、家族と一緒に過ごす時間を支援している。	看取り支援後、本人を偲びながらカンファレンスを開催している。家族が立ち会えない時、最期の状況を伝えられるようにすることや、エンゼルケアに関する研修の要望などが出されている。今後の支援に活かされることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の時に行っているが、参加できていない職員のフォローができていない。定期的な訓練をすることで、実践力を身に付けたいと思う。また、日頃から急変や事故発生に備えての心構えも必要だと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応を検討し、避難訓練を利用者と共に行い、避難場所の把握と意識徹底に努めている。また、災害時緊急連絡網にて情報を周知し、職員各々の役割を決め、対応するようにしている。	今年度は11月に昼想定火災避難訓練を実施し、3月末に夜間想定訓練を予定している。自然災害については机上訓練を行っている。備蓄はリストをもとに確保している。ホームはこれまで大きな自然災害は発生していない地域であるが、門前の水路や橋は避難誘導の面からも課題としている。	火災は火を出さないことが一番であり、チェック表を活用した安全管理に期待したい。今後は運営推進会議の中で訓練を開催することも良いと思われる。感染症の状況を見ながら実現に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりと敬意を持ち、1人1人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮しながら、不愉快になるような言葉かけになってないか気を付けながら丁寧な言葉かけをするように努めている。	言葉使いや入居者に不快感を与えない支援など研修会などで周知が図られている。呼称は苗字や家族からの要望で下の名前でも応じている。入浴や起床時の着替えも本人の希望を聞きながら必要なアドバイスを行っている。お化粧や新しい衣服を着られた時は、特に言葉かけを大切にすることで喜びを増されている。	呼称については下の名前でも対応していることを全家族へ伝えておくことも必要と思われる。写真の掲載にあたっては、掲載すべきものか等検討の機会をもつ事も必要と思われる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定に基づき支援するため、常に何かしたいことはないか、食べたいものはないか等尋ね、できるだけ選んでいただけるよう心がけて聞く様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心掛けて利用様者のその日のペースに合わせた声掛けや見守り支援を行い、その人らしい生活の優先をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の服装等利用者様の好みに合わせた身だしなみ、服選びを確認しながら行っている。お化粧をしたり、新しい服を着られたとき等ほめる事で気分が明るくなれたり会話が弾んだ。今はコロナ禍で散髪に長くきていただけていない。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	干し柿作りや梅ジュース作り等の参加や利用者の誕生日メニュー希望等されている。また、料理のつぎ分けや下膳、お盆拭きなど可能な範囲でしていただいている。ただ、コロナのため利用者と職員と一緒に食事をとることはできていない。	開設時より職員による献立や調理が行われており、食材は専門店からの配達や、家族、職員による差し入れ野菜なども活用されている。職員も同じものを摂ることで思いを共有でき、仕事の活力になっている。工夫を凝らした行事食や誕生会には希望を聞き取っており、焼肉やすき焼きなど和食より肉類を好まれるようである。個々の嚥下力についても話し合いを重ね、ムース食や常食でも一口大にするなど見た目にも美味しく食べられるよう配慮し提供している。	入居者に初物を食べてもらおうと、職員の掘った竹の子が季節の一品として登場している。食事は入居者の楽しみであり、手作り食の提供は家族にも好評である。継続した取組が期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取を毎日チェックし1人1人の状態を把握し、変化に気をつけている。食事がすすまない利用者には希望を伺い、好まれるものを提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に毎食後付き添い、声掛けや見守り、必要に応じて介助、と本人にあった支援にて口腔ケアを行い、ケア状態の把握に努めている。また、管理が必要な利用者は、訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記入することで排泄パターンや状態変化の把握に努めている。失禁が増えてきた利用者を安易にオムツ使用に切り替えず対応に努めている。尿意・便意が曖昧な利用者は定期的に声掛けして誘導するようにしている。	把握した排泄パターンを共有し、声掛けや誘導、見守りなどの支援、昼・夜排泄用品の使い分けに努めている。失禁が増えた方にも安易にオムツにすることなく、個別の支援方法を検討し現状が維持できるようにしている。現在、リハビリパンツを使用される方や布パンツで過ごされる方もおられる。可能な限り自然排便に繋がるよう、水分補給やヨーグルトの提供、毎日の食事にも野菜料理を多く取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、多めの水分補給と便秘改善ヨーグルトの使用に努めている。個々に応じた緩下剤の使用や対応をしつつ、便座に座るよう声掛けや腹部マッサージも心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の気持ちに沿い、タイミングをみて入浴をすすめている。気がすすまない時は時間・日にちを変えて対応している。入浴を楽しめるように音楽をかけたり、温度や照明にも気を配っている。	週2～3回、午後を中心に湯温や照明にも配慮しながら入浴支援が行われている。ホームには機械浴が備わっており、2名の方が利用されている。気が進まない方には翌日に変更するなど無理強しないよう配慮している。今年度菖蒲湯は実施できたが、柚子湯は準備できなかったようである。	季節行事や入浴の楽しみとして、菖蒲や柚子湯など可能な範囲で取組まれることも良いと思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が希望される時間に休んでいただき、照明や室温、寝具に配慮している。日中は疲労感がみえたら声掛けして臥床促す等その日の体調も考慮し、休息をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも見られる所に内服一覧表を置き、確認できるようにしている。特に薬の変更時は職員連絡帳や介護記録に記入して注意している。服薬は個々の能力に合わせ、袋ごとの手渡し、手のひらに出す、口に入れるまでの介助等している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事のつぎ分けやゴミ箱作り等得意なことを活かし、役割を担っていただけるよう努めている。歌が好きな方のため歌番組を録画したり、外出好きな方のためにドライブに出かけたりと気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で日常的な外出は難しいが、数は少ないもののドライブ等で外出を楽しんでいただいたり、希望を聴いたりしている。また、個別に散歩していただいている。	家族との日帰り旅行をはじめ以前のような外出は困難であったが、感染症の状況を見ながら地域資源(港・駅・神宮など)を活用したドライブが行われている。また、ホームの広い駐車場や近隣の散歩などは日常的に取り組んでおり、菜園では芋ほりも楽しまれている。昨年は少し暑さも落ち着いた9月に庭先で花火も行われている。また、月命日への帰宅には家族の協力が得られている。行きつけとなった地域の喫茶店の利用や、自宅への帰省や外食などこれまでのような外出を家族も楽しみにされており、感染症の早い終息が待たれる。	今後も出来得る外出支援や、外出に代わるホーム内での楽しみ事など取組が期待される。また、DVDやYouTubeなどを活用しながら外出や旅気分を味わうことも良いと思われる。実現に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口のお金は事務所で預かり、本人が希望されたときは使用の許可を家族からもらっている。所持している利用者様はいるが、コロナで買い物は行けていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話などゆっくり話せるようにしている。ご本人、ご家族の意向に沿い、電話、手紙の活用を行っている。年賀状を本人様に一言書いていただいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に気持ち良く過ごせるように音・温度・風等配慮し清潔に保つようになっている。また、季節も感じてもらえるように花や創作品を玄関やホールに置いている。廊下に行事の写真を掲示して楽しい思い出を回想してもらえるようにしている。	共用空間は清潔を心掛け、リビングホールや玄関には花や入居者と一緒に作成した壁面作品を掲示し、季節感を感じてもらえるようにしている。テーブルや席の配置も感染症や相性などを考慮してその時々で決定している。開放感のあるリビングからは、日課の体操や歌声、談笑の音が聞こえホームの日常が伝わってくる。また、洗濯物たたみなどの家事も手際よく行われている。廊下には外出やイベント、日常の光景を写した写真が掲示され、入居者も立ち止まり眺めておられる。	廊下に掲示された写真には撮影日を記すことでわかりやすく、会話の中にも盛り込められると思われる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを2台設置し、ソファも各所に置き、気の合った方と過ごされるよう配慮している。また、1人1人自由に過ごせるように配置や声掛けも行っており、思い思いの時間をすごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物を持参されており、ベッドの位置などそれまでの生活と変わらないようにしたりとそれぞれに個性ある空間となっている。	本人にとって安心して過ごせる居室となるよう、自宅にある物やこれまで使用していた物などの持ち込みを依頼している。タンスやアルバム、写真などが持ち込まれている。また、数人の方がテレビを持ち込まれているが、実際居室で見られる方は少ないようである。入居者の中には畳スペースを設け、仏壇を置かれ心の拠り所とされている。現在、家族の面会を控えており、衣替えは職員が中心に行っており、シーツ交換は基本的に週1回と必要時に行われている。	家族の安心に繋がるよう引き続き居室内の掃除や整頓の徹底と、取組状況を発信されることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの目印を貼ったり、上られる危険のある椅子を撤去したりと自立を意識しながらも安心・安全に生活できるよう心がけている。広い空間が見渡せるように設計されており、自由に過ごしていただけるようになっている。		